

高館山

（冠字番号 呂 第 6 号）

成果 X=-137073.640m
Y=-94069.000m
標高 273.79m

世界測地系「測地成果 2011」

点	選	点	明治 27 年 5 月 26 日	選	点	者	真田義啓	
の	造	標	明治 一 年 一 月 一 日	—	—	—	—	
記	埋	標	明治 31 年 7 月 6 日	埋	標	者	川又藤四郎	
抜	観	測	平成 8 年 8 月 31 日	観	測	者	金野幸弘	
粹	（備考）昭和 55 年、高度基準点測量							
所在 山形県鶴岡市大字大山字城山国有林（193 林班へ小班）								

登山日 2014 年 8 月 31 日（月） コースタイム：徒歩 0 分

徒歩0分、電波塔が林立する高館山

高館山は庄内の電波塔の山・・

山形県鶴岡市を流れる一級河川赤川と一般国道 345 号と公差する箇所にか三川橋が架かっている。その橋の袂から西方を見上げると、5 本の電波塔が林立する山がある。その山が一等三角点高館山（273.79m）である。

その高館山は、林野庁の自然休養林の指定や自然に親しむ憩いの場として「森林浴の森 100 選」にも選ばれている。



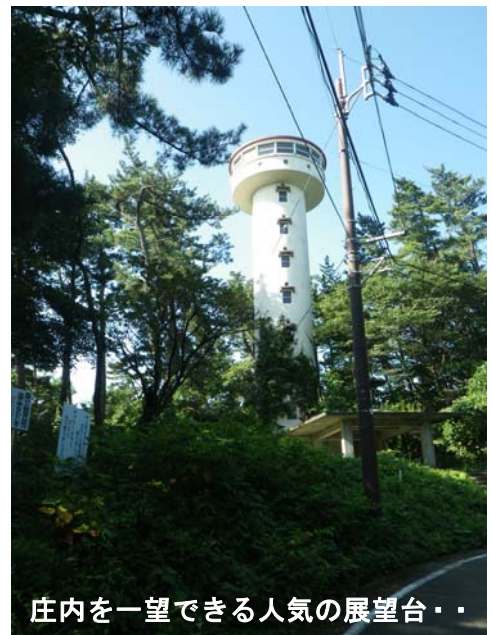
高館山の遠望（鶴岡市の三川橋から）

高館山で「わけあり」のご一行様も??...

酒田市飯森山から一般国道 112 号を日本海沿いに南下し、鶴岡市加茂港から加茂坂トンネルへ進むと『高館山』の案内板があった。山頂まで 3.3 km とあるが 10 分足らずで山頂に到着した。山頂には電波塔 5 基と展望台が聳え建っている。三角点は道路脇にある。車外に出たら一台の車が登ってきて、私達の車の後ろに駐車した。3 人のご一行様が降りてきた。気軽に「もしかして三角点に来たんですか？」と声をかけたら、「ここで亡くなった人がいるんですよ」と言葉を残して松林の中に消えて行った。でも近くにお墓らしいものは見あたらないし、その方向は崖地になっている。なんか「わけあり」のご一行様みたい!?!、に思えた。



道路脇の高台の広場に三角点があった



庄内を一望できる人気の展望台・・

国土地理院特注の蓋なのか??..

道路から高台に上がると東屋^{あずまや}と円形の展望台が目に入った。三角点のある場所は白い標示杭がありすぐわかった。

川崎市の一等三角点マニアの知人がこの高館山に来た時、マンホールの蓋を開けられなくて途方にくれ、たまたま通りがかった自衛隊の方に開けてもらって目的の一等三角点の柱石と無事ご対面できた。そういう話を聞いていたので、開閉用の工具は準備していた。



国土地理院の刻印がある蓋ですが・・・

マンホールの蓋開けに、四苦八苦でした??..

マンホールの蓋には『三角点』と『国土地理院』の刻印があり、一箇所だけ手鉤^{てかぎ}をかけられるような『ヘソ』があった。そこに差し込んで蓋をひきあげようとしたが動かない。ネジ込み式かな、と思い回そうとしたが、これも動かない。なるほど、何の工具もない「川崎市の知人」が開けられなかった理由がよくわかった。今度は『ヘソ』の部分をバールで押した。『ヘソ』の部分が沈んだ分、蓋との間に隙間^{すきま}ができた。その隙間に横からもう一つのバールを差し込んでひっぱたら、ようやくその蓋が開いた。そして高館山の花崗岩（御影石）の柱石と無事ご対面した。



マンホールの中の三角点柱石を見たいだけ・・・



頑強な蓋ですが・・・
何のために？・・・

山国育ちの私、つい日本海の景色に癒やされて・・・

ともかく無事に高館山の一等三角点柱石とご対面し、次の白鷹山に向かうことにした。

しかしながら、あの頑強な蓋は何のため？なぜ？という疑問が頭からとれない。

高館山の中腹の見晴台に立ち寄った。眼下には加茂の港と、今や「クラゲ水族館」で一躍脚光を浴び続けている加茂水族館の新館の上部が確認できた。涼やかな潮風が港から吹き上がってくる。眺める景色に酔い心の蟠^{わだかま}りが風によって消え去っていく気がしていた。



高館山の中腹からの
加茂港と日本海の眺望
ススキも顔出して・・・